



◆ 福岡教区創立100周年に向けて ◆

2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。これを受け、教区報では、各小教区や団体が100周年に向け取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介していきます。

「創立100周年」の情報は右記QRコードからご覧になれます。



巡礼指定教会の取り組み

3. 大江教会



巡礼記念コーナー

大江教会は1880（明治13）年に創立されました。現在の聖堂は1933（昭和8）年3月25日の神のお告げの日に献堂式が行われています。聖堂正面の壁に掲げられている絵は、主任司祭のフレデリック・ルイ・ガルニエ神父様（パリ外国宣教会）の姪御さんが聖堂完成のお祝いに描かれ、フランスから送られた「お告げ」の絵です。聖堂正面に十字架以外のものが掲げられているのは珍しいのではないかでしょうか。

現在多くの方々が国内はもちろん海外からも日々訪れて下さっています。聖堂入り口に設置された旅ノートには見学の感想として「安らぐことができました」等の感想を頂いています。また、県外からの修学旅行、市内学校の学習体験としての来訪があります。海外からの巡礼ミサも多くなりました。言葉は

分かりませんが、ミサの進行（信仰）は世界共通ですので違和感なく参加することができます。また、クリスマスには地元の保育園児が馬小屋訪問を毎年行ってくれます。昨年は支援学校の生徒が初めて訪れてくださいました。目に見える宣教の結果はありませんが、開かれた教会・祈りの場でありたいと思っています。

今回福岡教区100周年巡礼教会に指定され、聖堂入り口に看板を設置し、全信徒宅に巡礼指定教会になったことと、ヨゼフ・アベイア司教様からの「多くの巡礼者を受け入れ、信仰の歩みの手助けをして下さい」との言葉を添え通知いたしました。また教会スタンプも新しいデザインに変更いたしました。主日のミサ前には「福岡教区創立100周年のための祈り」を一同で唱えています。巡礼者を直接お出迎えは出来ませんが、是非皆様大江教会までお越し下さい。そして共に福岡教区と世界平和のため、また困難の中にある方々のために祈り下さい。

大江教会信徒 川口 明

初夏を思わせる陽気となつた4月16日（水）の午後、力テドラー大名町教会に司祭54人のほか、200人近い信徒が集い、ヨゼフ・アベイア司教主式による聖香油ミサが執り行われた。

説教の中で、アベイア司教はルカによる福音書4章16節21節を取り上げ、ここに述

た4月16日（水）の午後、力テドラー大名町教会に司祭54人のほか、200人近い信徒が集い、ヨゼフ・アベイア司教主式による聖香油ミサが執り行われた。

説教の中で、アベイア司教はルカによる福音書4章16節21節を取り上げ、ここに述



聖香油ミサ（左から3人目）

司祭は神に愛されている罪人。福岡教区としてこの地に派遣されている信徒、修道者、司祭と司教は、お互いに支え合いながら、これからも歩み続けなければなりません」という思いを示した。

聖体拝領に続き、病者と洗礼願者のための油、それぞれの祝福、そして堅信等に用いられる香油の聖別が行われた。閉祭時、アベイア司教は今年司祭叙階70周年を迎えた福

ミサ後は1階講堂でパ

ティーが催され、畠山神父のビデオメッセージが上映され

た。ビデオの中で畠山神父は、神学校や趣味についての思いを辿り、元気な姿を見せた。その後は司教を交えての歓談が続き、司祭と信徒との交流を深めた。

※「聖香油ミサ」の配信は下記QRコードよりご覧になれます。

テドラー大名町教会に司祭54人のほか、200人近い信徒が集い、ヨゼフ・アベイア司教主式による聖香油ミサが執り行われた。

説教の中で、アベイア司教はルカによる福音書4章16節21節を取り上げ、ここに述

た4月16日（水）の午後、力テドラー大名町教会に司祭54人のほか、200人近い信徒が集い、ヨゼフ・アベイア司教主式による聖香油ミサが執り行われた。



山七郎神父（引退後、司祭の起源であると語った。また、自身の叙階式を行つてから50年振り返り、感謝の言葉とともに司祭が誰であるか、司祭に求められる司祭は神に愛されている罪人。福岡教区としてこの地に派遣されている信徒、修道者、司祭と司教は、お互いに支え合いながら、これからも歩み続けなければなりません」という思いを示した。

マセル・コース神父が紹介され、自身の歩みと美野島司牧センターでの活動を振り返るとともに、「福岡教区、九州の最後のパリミッショングルセーの愛、信仰を持つリストの愛、信仰を持ついる神父となりました」と寂しさ

次いでフランスへ帰国するリスの愛、信仰を持ついる神父となりました」と寂しさ

ベトナムに派遣された司祭は、お互いに歩み続けなければなりません」という思いを示した。

ミサ後は1階講堂でパ

ティーが催され、畠山神父のビデオメッセージが上映され

た。ビデオの中で畠山神父は、神学校や趣味についての思いを辿り、元気な姿を見せた。その後は司教を交えての歓談が続き、司祭と信徒との交流を深めた。

※「聖香油ミサ」の配信は下記QRコードよりご覧になれます。

ミサ後は1階講堂でパ

ティーが催され、畠山神父のビデオメッセージが上映され

た。ビデオの中で畠山神父は、神学校や趣味についての思いを辿り、元気な姿を見せた。その後は司教を交えての歓談が続き、司祭と信徒との交流を深めた。

ミサ後は1階講堂

知りたい！
福岡教区内の
修道会
最終回

福岡教区には現在30ほどの修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。
一昨春より紹介している、その修道会や宣教会。最終回は、福岡教区で一番歴史の長いシャルトル聖パウロ修道女会です。

シャルトル聖パウロ修道女会

記念館 (Sr. 富田撮影)



熊本県八代市にある修道院は1900年（明治33年）当時の八代教会主任ヨル神父の要請により東京から3人の修道女が派遣されました。一人は医師の資格を持つスール（フランス語で「姉妹」という意味）・ウラリ、そして他の2人は看護師の資格を持ち、着任早々孤児のお世話、診療所等の奉仕活動を始めました。現在も敷地内に現存している「記念館」（国登録有形文化財）は八代修道院の建物として建設されたものです。この時に始まった福祉事業が現在も続く児童養護施設「八代ナザレ園」のルーツです。ちなみにスール・ウラリが1920年（明治43年）に創立したのが「八代女子技芸学校」で、これが現在の「八代百合学園高等学校」のルーツです。

「聖年」の今年は「八代修道院創立125周年」を迎えます。これからも神の慈しみに依り頼みながら、時代と共に大きく変化する社会環境の中で福祉・教育事業共々、身近な社会的ニーズに応えるべく、「いと小さき人々」特に子どもたちに寄りそっていきたいと思っております。

Sr. 富田 美智子

3月22～23日、旧カトリック神学院で福岡と大分教区の青年黙想会がありました。18人の青年が参加、7人の司祭が共に過ごしました。韓国では若者の聖歌を「生活聖歌」と呼んでいましたから、その意味について考

3月22～23日、旧カトリック神学院で福岡と大分教区の青年黙想会がありました。18人の青年が参加、7人の司祭が共に過ごしました。韓国では若者の聖歌を「生活聖歌」と呼んでいましたから、その意味について考

聖歌で信仰を深めた青年たち

今回の青年黙想会は、そのような観点から、司祭たちがそれぞれ聖歌を1曲ずつ選んで青年たちの前で歌い、その聖歌を通して感じたイエス様を分かち合いました。さらに一緒に歌うことで、聖歌を通して日常でもイエス様に会えることを知つてもうための時間を設けました。いつものような、座つたままで聞いたり分かち合ったりするような黙想会ではなく、実際に歌つて何かを感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

ちがそれぞれ聖歌を1曲ず

つ選んで青年たちの前で歌

い、その聖歌を通して感じ

たイエス様を分かち合いま

した。さらに一緒に歌うこ

とで、聖歌を通して日常で

もイエス様に会えることを

知つてもうための時間を設

けました。いつものような、

座つたままで聞いたり分かち

合したりするような黙想会

ではなく、実際に歌つて何か

を感じられるように用意した

講話を聞いて頭で理解する

信仰も大事なことです

が、日本に来て黙想しながら

生活の中で気軽に歌つて

いる、それが「生活聖歌」ということではないかと思

いました。

今回の青年黙想会は、そ

のうな観点から、司祭た

